

低レベル放射性廃棄物輸送の概要

当社は、日本原燃（株）との低レベル放射性廃棄物埋設契約に基づき、低レベル放射性廃棄物を日本原燃（株）低レベル放射性廃棄物埋設センター（青森県六ヶ所村）へ輸送しています。

今回の輸送を含め、同埋設センターへの低レベル放射性廃棄物の輸送は 25 回目となります。

今回輸送する低レベル放射性廃棄物

不燃性の雑固体廃棄物をドラム缶に収納後モルタル充填して固めたもの（充填固化体）です。搬出にあたり、外観、線量当量率等について、独立行政法人原子力安全基盤機構による確認を受けたものです。

低レベル放射性廃棄物の輸送実績

浜岡原子力発電所からの低レベル放射性廃棄物の輸送は平成 5 年に同埋設センターへ輸送して以来、今回が 25 回目となります。詳細は下表のとおりです。

輸送実績	時期	本数	輸送実績	時期	本数
第 1 回	平成 5 年 3 月	1,920	第 13 回	平成 11 年 9 月	797
第 2 回	平成 5 年 10 月	1,120	第 14 回	平成 13 年 2 月	520
第 3 回	平成 6 年 2 月	1,600	第 15 回	平成 13 年 11 月	520
第 4 回	平成 6 年 11 月	1,600	第 16 回	平成 14 年 3 月	560
第 5 回	平成 7 年 1 月	800	第 17 回	平成 15 年 3 月	520
第 6 回	平成 7 年 9 月	1,120	第 18 回	平成 15 年 3 月	520
第 7 回	平成 8 年 1 月	800	第 19 回	平成 16 年 2 月	1,080
第 8 回	平成 9 年 1 月	880	第 20 回	平成 17 年 3 月	976
第 9 回	平成 9 年 1 月	880	第 21 回	平成 18 年 3 月	1,080
第 10 回	平成 9 年 11 月	800	第 22 回	平成 19 年 3 月	1,080
第 11 回	平成 10 年 1 月	800	第 23 回	平成 20 年 3 月	1,080
第 12 回	平成 11 年 1 月	800	第 24 回	平成 21 年 3 月	1,080
			第 25 回※	平成 22 年 2 月	1,080
			合計	—	24,013

※今回の輸送予定時期および本数を記載

今回の輸送に使用する輸送容器の概要

材質	大きさ	重量
鋼鉄製	縦 3.2m × 横 1.6m × 高さ 1.1m	約 1 トン

輸送容器は、法令に基づいて設計され、製作時に日本海事検定協会の安全性確認検査に合格したものを使用しています。

今回の輸送に使用する運搬船の概要

船名	全 長	全 幅	載貨重量	最大積載可能輸送容器数 (ドラム缶本数)
青栄丸	約 100m	約 16m	約 3,000 トン	384 個 (3,072 本)

運搬船「青栄丸」の所有者は原燃輸送（株）です。

青栄丸には、レーダーや衝突防止装置が装備され、無理のない運航計画にするなど、十分な安全対策の元で輸送を実施します。なお、青栄丸は、二重船殻の難沈構造となっています。

今回の輸送において、青栄丸のむつ小川原港への入港は平成 22 年 2 月 18 日（木）の予定です。

低レベル放射性廃棄物の貯蔵容量及び貯蔵本数

平成 22 年 1 月末現在

固体廃棄物貯蔵庫	貯 蔵 容 量	貯 蔵 本 数
1 号 棟	7,000 本相当	3,952 本相当
2 号 棟	35,000 本相当	32,078 本相当
合 計	42,000 本相当	36,030 本相当

陸上輸送中の安全対策

輸送にあたっては、車両への固縛積載、標識の貼付等の安全対策を実施します。輸送路の主要交差点においては交通整理員による立哨案内を行うなど安全確保を図ります。

また、輸送状況の把握、円滑な連絡体制を確立するために発電所に輸送本部を設置します。万一の場合に備え、放射線測定・防護機材等の資機材を発電所輸送本部等に配備しています。

事故時の対応措置（連絡体制）

輸送中に事故が発生した場合は、関係する行政機関、警察機関、消防機関等に通報するとともに、報道機関へ速やかに公表します。

また、立入り制限区域の設定、火災時の消火および延焼防止、汚染が生じた場合の汚染の拡大防止および除去等の措置を実施するとともに、警察機関、消防機関と協力して、事象の状況を踏まえて応急措置を実施します。

今後の輸送計画

平成 21 年度の低レベル放射性廃棄物の輸送は、今回の輸送をもって終了です。なお、平成 22 年度以降の輸送計画については、現在、関係各所と調整中です。

以 上